

「まんいん」なの？

副校長 安達 修久



関東甲信越が梅雨入りを迎えましたが、雲が切れて陽が差すことも度々あります。気温が上がり、太陽とともに見える青空と白い雲から、もう夏が近いと感じられます。

毎日校庭を回っていると、木々の緑が日々濃くなっていくのがわかり、またウグイスなど野鳥の声が聞こえて

きて、釜利谷小学校は本当に豊かな自然に囲まれているのだなと実感します。先日聞き慣れない鳴き声が聞こえ、どんな鳥が鳴いているのかと目を凝らすと、1棟の裏でリスが一生懸命「キィ、キィ」と声を出している姿が目に入ってきました。

屋外から中に入って校舎内を回るとき、いつも流しの前の1枚のポスターに目が止まります。「なかまはずれをしない。」と大きく書いてある字の下で、子どもたちが大なわとびをして遊んでいます。「まわすよ」となわを回す子が2人、今まさに飛んでいる子が1人、並んで待っている子が3人。中には笑顔の子もいます。

そして左下に、「なんでいれてくれないの」と泣いている子が1人。回している子の1人が「まんいんだからいれないの」と笑顔で言っています。

「なかまはずれをしない。」というメッセージと、大なわに入れてもらえず、泣いている子。悲しい思いをした人が実際にいたから、このようなポスターがつけられたのだろうと思ひ、私は見るたび胸が痛みます。仲間外れにされていることで「心身の苦痛を感じている」この子は、いじめを受けていることとなります。(詳しくは、学校ホームページ、学校経営「いじめ防止基本方針」をご覧ください。)

たった4人しかとんでいない大なわで、なぜ「まんいんだからいれないの」という言葉が出てきたのでしょうか。「いじめの原因はさまざま、複雑に絡み合っている場合が多い」ため、一概には言えませんが、言った子が本気でそう考えているなら、本人に「いじめている」という自覚は無いと思われまふ。そんなつもりはなくても「いじめ」になってしまうことがある、つらい思いをする子がいたらなんとか解消を図るべき、といった学びを促す必要があります。また、笑顔で一緒に遊んでいながら「我関せず」といった様子の子たちにも、入れてもらえない子が「つらい思いをしているんだ」と気付くことができるようにし、なんとか解決しようという気持ちと行動を育てることが大切です。

学校だけでなく、家庭・地域の皆様とともに、子どもたちが自らいじめをなくすよう努力する釜利谷小学校にしていきたい、と常々励んでいるところです。これからもご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

